

十二代の三田藩主九鬼 ことで同族の丹波綾部藩か... 精隆が、江戸の上屋敷で、ら急ぎよ迎えられ、家督... 急逝したのは安政六(一) 相統したが、十三代藩... 八五九 年八月十九日の 主となる九鬼隆義だ。

三田藩の人々 ⑩

きょうの紙面から

- 混合診療の解禁断念ー規制改革会議
高年齢者口腔ケアに「訪問歯医者」
芦屋の教諭らが震災伝えるDVD

購読のお申し込みは0120-168-349

ひょうご幕末

九十



一坂太郎

(一面から) 隆義から抜擢された退蔵は藩財政を整理し、教育振興に努めた。藩士の家に伝わる古式の武器を売却させ、最新式のスナイドル銃を購入させた逸話はよく知られる。

三田藩の人々 ⑩

退蔵は、三田藩生き残りをかの献金をするなど、佐幕色をけ、ひそかに討幕派公卿に接近。慶応三年十一月二十八日、江戸に赴いて隆義を説得し、三田に連れ帰って、新政府に對し恭順させた。

よう(北康利『北摂三田の歴史』)。だが、そのしわ寄せは民衆に向けられた。明治二(一八六九)年は七月に六甲山に雷が降るほどの冷害で、大洪水も毎年続いていた。にもかかわらず三田藩は、農民に七割という苛酷な年貢を求める(西村繁『明治二年三田百姓一揆』)。こうして有馬郡五十三力村で大規模な農民一揆が起こり、混乱の中で三田藩は藩置県を迎えた。

い、後日神戸が発展するや莫大な利益を手にした。あるいは十八年ころから神戸・中山手に広大な屋敷を建て始め、明治末に完成。蘇鉄園と呼ばれた。ここは昭和十六(一九四二)年に神戸市が譲り受け、相楽園として現在もつづじの名所、あるいは菊花展で市民に親しまれている。さらに泰次郎は、県議會議員や神戸区会議員などを歴任。その恩子は衆議院議員や神戸市長を務めるなど政界で活躍する一方、三田学園を創設して教育にも力を注いだ、小寺謙吉である。

佐幕色薄めた白洲退蔵

白洲退蔵の墓=三田市西山、心月院



士から抜擢したのが、小寺泰次郎だ。泰次郎は退蔵らと財政改革に尽力。明治五年には隆義・退蔵とともに志摩三商會を設立し、実業界に進んだ。かつて、水軍で知られた九鬼家は、いつか海に戻れる日を夢見ていたという。そのせいか隆義は、泰次郎らと開港間もない神戸の土地を買い占める。神戸の長者番付の一位・二位を隆義と泰次郎が占めたと言われるほどだ。

小寺泰次郎は実業界に進む

この、北摂の盆地の小藩出身者たちが、明治日本に果たした巨大な役割についてはもっと分析、解明されるべきであると思っている。(いちさか・たろう『萩博物館高杉晋作資料室長』)